

ならちゅうしん経営研究会 例会報告
第 364 回 研究会（鹿児島視察研修）

日 時 令和 5 年 6 月 2 日(金) ～ 4 日(日)

場 所 県外視察 鹿児島県

内 容 第 1 日目 6 月 2 日(金)

午前 9 時 30 分 大阪国際(伊丹)空港発

午前 10 時 45 分 鹿児島空港着

1. 視察 株式会社飯塚製作所 鹿児島工場
(鹿児島県始良市蒲生町久末 3043-8)
冷間鍛造部品の開発及び製造販売

2. 懇談 鹿児島相互信用金庫
(鹿児島市与次郎 1-6-30)
信用金庫

3. 異業種交流会 いちにいさん 天文館店
ブレーン 21 との交流会

第 2 日目 6 月 3 日(土)

4. 視察 株式会社 立石食品
(鹿児島市谷山港 2-2-4)
食品製造業(さつま揚げ)

5. 視察 有限会社 上田玄米茶屋 鹿児島工場
(鹿児島県南九州市川辺町下山田 3154-1)
お茶製造販売

6. 視察 本坊酒造 株式会社
(鹿児島県南さつま市加世田津貫 6594)
酒類製造販売(焼酎、ウイスキー)

7. 見学 知覧特攻平和会館
(鹿児島県南九州市知覧町郡 17881)

第 3 日目 6 月 4 日(日)

8. 見学 維新ふるさと館
(鹿児島市鍛冶屋町 23-1)

9. 視察 バレルバレープラハ&Gen
(鹿児島県霧島市溝辺町麓 876-15)

午後 2 時 35 分 鹿児島空港発

午後 3 時 45 分 大阪国際(伊丹)空港着

今年度の視察研修は、期初の計画通り、鹿児島県への視察研修を実施しました。

(鹿児島県について)

鹿児島県は、九州地方の南部に位置し、面積は9, 187. 01k m²、人口は1, 553, 009人（令和5年5月31日現在）で、霧島山や桜島、種子島、世界自然遺産の屋久島、奄美大島や徳之島などがあり、豊富な自然を観光・産業振興などの面において、上手く活用しています。県庁所在地は南九州の中心都市で九州地方第4位の人口587, 992人（令和5年5月1日現在）を擁している鹿児島市に置かれています。

日本有数の農業県であり、主要な産地となっている農産物として、サツマイモ、サヤインゲン、お茶などがあります。伝統的に焼酎製造が盛んで県内の酒造業者はほぼ焼酎を中心商品としています。畜産では養豚が県産業の基幹となっており、その収益は820億円に上り、県内では約140万匹の豚が飼われています。漁業では、枕崎市を産地とする鰹節の生産が盛んで静岡県と並びます。また鰻の養殖も盛んで生産量は全国1位です。



鹿児島空港

(株式会社 飯塚製作所 鹿児島工場 視察)

第1日目6月2日、最初の視察先として、当金庫取引先の株式会社飯塚製作所鹿児島工場を訪問させて頂きました。飯塚製作所は金属製品の冷間鍛造技術に長年培われた優れた技術力を持った企業で、主に自動車のシートベルトやエアバックに使用される金属部品を製造されています。本社は大和高田市にございますが、鹿児島県始良市に2011年10月、鹿児島新工場を建設されました。

最初に副社長の飯塚様と工場長の榎谷様より当社の経営理念や、会社概要、事業内容、そして鹿児島工場についてご講演を頂きました。当社の強みは自社での金型開発製作、素材から前処理、プレス加工、検品、出荷までの一貫生産体制の随所に長年のノウハウが盛り込まれている点で他社には再現出来ないとのこと。鹿児島県に工場を建設された理由は、補助金や人材支援など行政による支援が充実していたこと、奈良県と鹿児島県に生産拠点を分散させることがBCP対策になる点などで、鹿児島工場では102名の従業員全員が、鹿児島県民であるとのこと。

その後、鹿児島工場をご案内頂きました。冷間鍛造プレス機から、トランスフォーミング、金型を製作するマシニングセンタ、そして品質保持の要となる検査工程と、当社の強みである一貫生産体制の流れに沿って見学させて頂きました。最後に意見交換会を実施し、生産管理や人材採用、会社の幸福度向上など活発な意見交換が行われました。



飯塚副社長 ご挨拶



鹿児島工場 見学

(鹿児島相互信用金庫ブレン“21”との異業種交流会)

第1日目6月2日の夜は、鹿児島相互信用金庫取引企業の50歳未満の若手経営者で構成されるブレン“21”との異業種交流会を行いました。ブレン“21”は経営者としてのスキル向上を目指して、鹿児島相互信用金庫と共に研鑽することを目的に鹿児島県内に55支部を持つ、県下最大の若手経営者組織で会員数は約980名とのこと。定例的な活動として、朝食勉強会やブロック毎の例会、全体総会、なんこ大会等を実施されています。交流会では嶽野代表幹事(株かごしま屋_代表取締役)他6名の

副代表幹事にご参加頂きました。

嶽野代表幹事と上田会長のご挨拶にはじまり、参加者全員よりの自社の事業や商品、取り組みについてのスピーチがあり、メインイベントとして、鹿児島、宮崎に伝わる伝統的な酒席の遊びである「なんこ」大会をブレーン“21”、鹿児島相互信用金庫役員、ならちゅうしん経営研究会側に分かれての団体戦をトーナメント方式で実施頂き大いに盛り上がりました。



上田会長 ご挨拶



嶽野代表幹事 ご挨拶



なんこ大会

(株式会社 立石食品 視察)

第2日目6月3日の午前は、鹿児島県の名産品である“さつまあげ”を製造されている立石食品さんを視察させて頂きました。当社が製造する「さつまあげの揚立屋」ブランドの“さつまあげ”は、無リンすり身を使用したヘルシーな商品で、全国のスーパーマーケットや百貨店で販売されています。また、直営店の「揚立屋本店」や「揚立屋天文館店」では“さつまあげ”やちくわのほか、お惣菜や弁当なども販売されています。

今回の企業視察では、鹿児島相互信用金庫の永倉理事長にもご臨席頂きました。工場

を見学させて頂いたあとに、立石社長より無添加に拘る当社の信条や事業内容についてご講演を頂きました。



立石社長 ご講演



工場見学へ

(有限会社 上田玄米茶屋 鹿児島工場 視察)

第2日目6月3日の午前、続けて、当会会長である上田玄米茶屋さんの鹿児島新工場を視察させて頂きました。当社は南九州市川辺町、薩摩半島の中央に位置する丘陵地域に今春、新工場を建設されました。鹿児島県は静岡県に次ぐお茶の産地で、南九州市は全国一のお茶生産量を誇ります。新工場を建設された地域は広大なお茶畑が広がる産地で、当社の工場は樹齢100年を超えるお茶畑を併設した1町歩の広い敷地に約250坪のゆったりとした建屋でした。



新工場外観



工場内①

上田会長より、材料の投入から、乾燥、粉碎、異物の除去、袋詰め、出荷に至る一連の工程を解説頂きました。当工場は食品工場としてGFSI (Global Food Safety Initiative) が定めた第三者認証機関の認証を受けFSSC 22000を取得され、消費者に安全なお茶を提供することを目的に徹底した安全、衛生管理体制のもと運営されていました。

前述のとおり、鹿児島県は全国2位のお茶の産地ですが、全国的にお茶農家が高齢化により廃業される傾向が続いているなかで、鹿児島県は他府県と比較してお茶農家の持続可能性が認められるとの上田会長の見識であります。そこで持続可能な産地である鹿児島県に工場を取得することが、今後も当社が飲料メーカーにお茶を安定供給していくための重要な成長戦略であるとのお話を頂きました。



工場内②



工場内③

(本坊酒造 株式会社 視察)

第2日目6月3日の午後は、本坊酒造さんを視察させて頂きました。当社は、明治5年(1872年)の創業以来、150年に亘り、創業者本坊松左衛門の「殖産興業による社会奉仕」という精神を繋げ現在に至ります。明治後半には、薩摩地方を代表する特産品である甘藷(さつまいも)を使つての焼酎製造に着手、また、昭和の初めより取り組む山林事業も、現在では鹿児島、宮崎、熊本にまたがる広さとなり、地球環境の維持に貢献できるようにと努力されています。

今回の視察では「津貫」ウイスキーを貯蔵熟成する石蔵及び瓶詰工場を視察し、焼酎やウイスキーを試飲させて頂きました。



本坊酒造



石蔵

(バレルバレープラハ&GEN 視察)

第3日目6月4日は、バレルバレープラハ&GENさんを視察させて頂きました。当社は、昭和6年（1931年）に鹿児島市清水町に種麴屋、河内源一郎商店として創業されました。初代河内源一郎の麴の研究の成果により、鹿児島県が焼酎製造の中心となる基盤が構築されました。その後、清水町から霧島市麓に移転し、焼酎工場・麴製品開発、さらに3代目の発酵研究のなかでチェコビールとの出会いから霧島高原ビールの製造を開始し、現在のテーマパークが出来るに至りました。

今回の視察では、山元社長より、麴の研究開発に邁進されて来られた当社の歴史を解説頂き、また麴の製造工場を案内頂きました。



山元社長ご説明



チェコテーマパーク

(まとめ)

鹿児島県は温暖な気候と広大なシラス台地を有し北海道に次ぐ農業畜産県です。奄美大島や種子島、屋久島などの離島面積が全国1位、竹林面積も全国1位です。世界有数規模である始良カルデラに位置し県下殆どの地域が桜島等からの火山噴出物（シラス層）によって厚く覆われており、豊富な温泉資源を持ち、鹿児島市内の「銭湯」の殆どが天然温泉で温泉源泉数、温泉利用公衆浴場数ともに全国2位です。

産業構造としては、農林業に従事する就業者の構成比が7.7%と全国平均の3.0%を大きく上回るのが特徴です。また製造業についても豊富な農林水産資源を加工する食品加工業が多く、金属加工業や機械器具製造業が少ないのも特徴です。

今回視察させて頂きました立石食品、本坊酒造、バレルバレープラハ&GENさんは、鹿児島県の特産品である“さつまあげ”や焼酎などを伝統を守りつつも新しい製法や技術を取り入れ受け継がれていました。また奈良県からの進出企業である飯塚製作所さんは鹿児島県に新しい産業と雇用を創出されています。そして上田玄米茶屋さんは産地にお茶工場を新しく建設され鹿児島茶の販路拡大に貢献されています。

またブレーン“21”との異業種交流会では若手経営者の皆様が非常に前向きに新規事業に取り組み事業を次世代に引き継ごうと頑張っておられること、皆さん明るく友

好的な経営者ばかりでした。そして鹿児島相互信用金庫様が地域と一体となって地元の産業振興をサポートされていること等、非常に学び多い視察研修となりました。

最後に、鹿児島相互信用金庫の永倉理事長、大迫専務理事、地域支援部の谷口部長をはじめ役職員の皆様、そしてブレーン“21”の皆様、視察にご協力頂きました企業の皆様のご好意により、充実した視察研修となりましたことを深く感謝申し上げます。

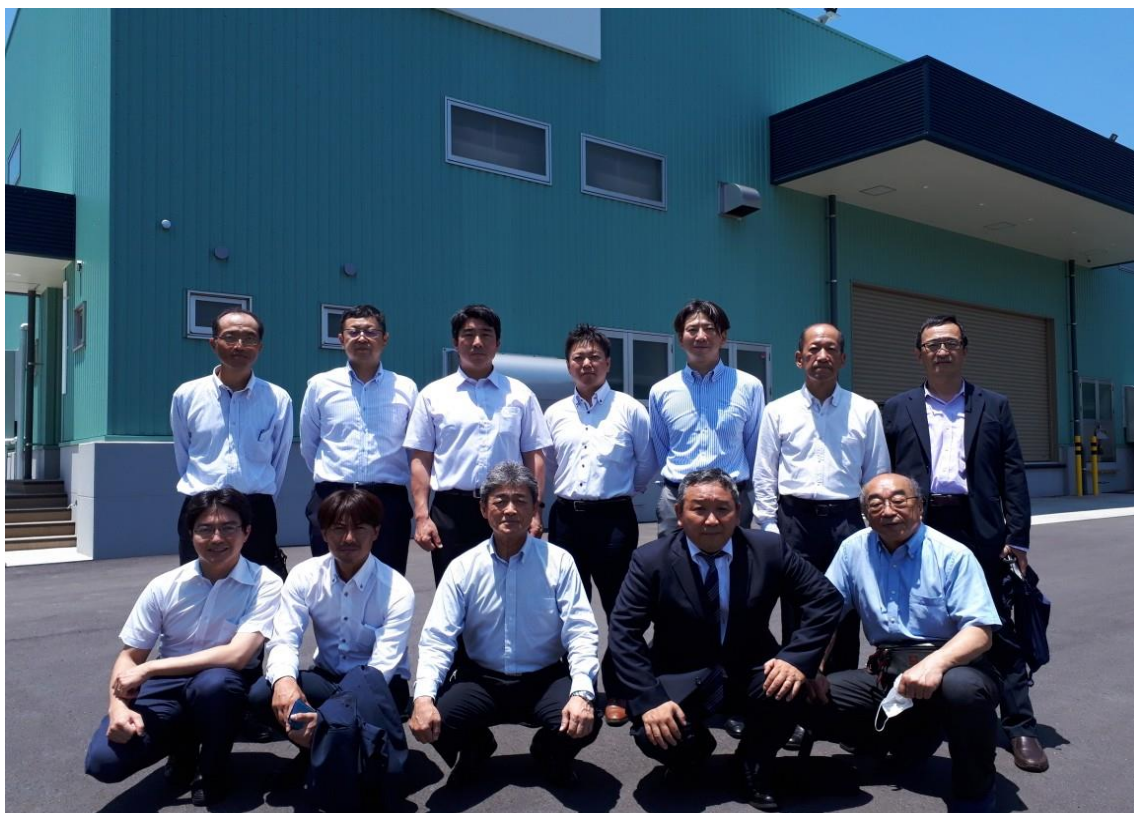
【他視察先写真】



知覧特攻平和会館



維新ふるさと館



集合写真 有限会社 上田玄米茶屋 鹿児島新工場にて